

« 活動内容 »

1. 「トウレット症 啓発月間」の実施
毎年5/15～6/15を「トウレット症 啓発月間」とし、啓発イベントを開催しています。
2. 上映会やセミナーの開催
上映会やセミナーを開催し、一般社会をはじめ、専門機関や行政に働きかけ、「トウレット症」の啓発をしています。
3. 発達障害団体との連携
発達障害の理解を深めたり、情報を得るため、発達障害関連の集会に参加します。
4. トウレット症関連の海外のドキュメンタリ-映画、「トウレット症なんかに負けないぞ！」DVDの貸出し(日本語字幕付き)
本タイトル：I Have Tourette's but Tourette's Doesn't Have Me”
5. 交流会の開催
患者・家族らが集い、情報交換をしながら「トウレット症」の理解を深めています。直面する問題に向き合い、お互いの経験から解決のヒントを探っていきます。
6. 会報便りの配信(要:会員登録)
イベント情報やトウレット関連情報を配信
7. 活動内容やトウレット症の関連情報を発信
 - ◎ Facebookページ／トウレット友の会
 - ◎ Twitter／トウレット友の会
 - ◎ gooブログ／「トウレット友の会」ブログ

＜入会のご案内＞

トウレット友の会は、トウレット症の啓発と患者・家族への支援のためのボランティア活動を行っています。基本的な活動は、啓発・サポート・コミュニティです。私たちの活動にご賛同くださる方は、全国のどなたでもご入会いただけます。一緒にその輪を広げていきましょう。(会費無料)

【会員特典】

- ①会報便りの配信
イベント情報や、トウレット症に関する情報を配信。
*配信停止を希望される方はご連絡ください。
- ②当サイトの[会員のページ「Q&Aコーナー」]を閲覧出来ます(会員限定)。
- ③ご相談、ご質問等がありましたら、メールにてお返事をさせていただきます。

入会のお申込みは「トウレット友の会」ホームページの【会員】のページより会員登録をお願いします。

問合せ先

tourette.fs@gmail.com

「トウレット友の会」ホームページ

<https://www.tourette-friends.org/>

トウレット友の会



「トウレット症」を知っていますか？

「トウレット症」は運動チックと音声チックが1年以上続く神経発達症です。その動きや声は、不随意、或いは半不随意的なもので、簡単に止めることは出来ません。



トウレット友の会とは

「トウレット友の会」はトウレット症の啓発と、患者やその家族への支援を目的とした非営利団体です。

チックやトウレット症に対する社会の理解が進んでいないため、患者らは生きにくい世の中だと感じることがあります。医療では正しい診断や治療が得られず困惑する人もいます。また、「発達障害」のひとつとして位置づけられているにもかかわらず、その認知度が低く、教育現場でも適切な支援を受けられなかつたり、チックが原因でいじめを受けたりする子どももいます。

トウレット症を抱えている多くの子どもは、小学校の高学年から思春期に向けて症状が悪化し、トウレット症特有の様々な症状を併発する傾向にあります。そのため、学校生活で困難にぶつかり、学校に行けなくなる子どももいます。基礎学力や人格が形成される大事な時期に、学校や社会と繋がることが出来ないことは望ましくありません。

患者がチックを抱えながらもイキイキと生きていく世の中になるためには、医療・保健・教育・福祉・就労といった関係機関と地域が一体となって支援し、「トウレット症」を取り巻く環境を整えていく必要があります。まずは、社会全体が「トウレット症」への理解を深め、偏見や差別のない社会になることを願っています。

<チック症の類別>

	種類	状態	持続期間
一過性	一過性チック	運動チックのみ 音声チックのみ 両方ある	4週間～ 1年未満
慢性	慢性運動チック	運動チックのみ	1年以上
	慢性音声チック	音声チックのみ	
	トウレット症	運動・音声の両方	

チック症・トウレット症 Q & A

Q:チックとは何ですか？

A:チックは突然的で、素早く、一定のリズムなく繰り返される不随意の運動(動きや声)で、意図的なものではなく、簡単に止めることは出来ません。症状は千差万別で、その重症度も個々により違います。また、発達障害のひとつでもあり、症状は経過年齢とともに寛解あるいは悪化するなど変化します。

	単純チック	複雑チック
運動チック	突発的で素早い動き・ぴくつきがある ・まばたき　・白目をむく　・目を動かす ・顔しかめ　・鼻をヒケヒさせる ・首ふり　・肩すくめ　・手を動かす	やや動きが遅く、一見目的があるような動き ・飛び跳ねる　・匂いをかぐ　・スキップ　・足踏み ・唇をなめる　・口の中を噛む　・モノや人に触る ・机をコツンと叩く　・体をひねる　・自傷的な動き
音声チック	発声に関わる筋肉群に作用して起こるチック ・咳払い　・鼻鳴らし　・喉を鳴らす ・「あっ」「うつ」「ちえ」などの単音の声 ・奇声　・動物が発するような大きな声	・汚言(コプロラリア)…不謹慎・卑猥な言葉を言う ・反響言語(エコラリア)…他人の言葉を繰り返す ・反復言語(パリラリア)…自分の言葉を繰り返す

Q:トウレット症とは何ですか？

A:チック症の中でも複数の運動チックと音声チックが1年以上続く場合、「トウレット症」と診断されます。

Q:トウレット症はどれくらいの有病率ですか？

A:*DSM5によるとトウレット症の推定有病率は学童期の子どもでも1000人あたり3-8人の範囲であるとされています。（*米国精神医学会による精神疾患の診断・統計マニュアル第5版）

Q:チックの原因は何ですか？

A:生物学的な機序のある脳の神経疾患であり、ドーパミンを中心とする脳の神経伝達物質のアンバランスの関与が指摘されています。

Q:チックは、社会でどのように理解されているのでしょうか？

A:チックは、かつては「心因性のもの」「親の育て方のせい」などとされていました。現在でも誤解を受けることが多く、本人や家族は辛い思いをしています。また、繰り返す不自然な動きや音声には「変な人」「頭がおかしい人」などと偏見や差別の目が向けられ心に深い傷を負います。

Q:チック以外で困る症状はありますか？

A:強迫症状、注意欠如・多動症、限局性学習症、発達性協調運動症、不安症状、怒り発作といった症状を高率で併発します。それによって、QOL(生活の質)が著しく低下、社会生活に支障が出ることもあります。